

給餌の際のほっぺに寄り添う渡部さんのトレードマークだった1992年頃



「ツルのおばあちゃん」渡部トメさん死去

給餌半世紀 保護に力

鶴居 愛された人柄惜しむ声

【鶴居】26日に老衰のため99歳でなくなったタンチヨウ給餌人の渡部トメさんは、半世紀にわたって自宅前の鶴見台で餌をまき続けるなど、保護増殖に尽力した。関係者からは長年の功績を称賛する声や、多くの人が愛された人柄を惜しむ声が相次いだ。

「きっぷのいい人柄が印



象的でした。タンチヨウを家族同然に考える地元の人

「きっぷのいい人柄が印象的でした。タンチヨウを家族同然に考える地元の人行動の一つ一つから教えてもらった。日本野鳥の会鶴居・伊藤タンチヨウサシクチュアリの原田修チーフレンジャー(57)は語る。

渡部さんは1920年(大正9年)鶴居村生まれ。自宅近くにあって旧下雷羅小の児童数減少を機に見直が行っていた給餌を65年頃に引き継ぎ巨額の牧草地で給餌を開始。67年には給餌人として道の委嘱を受け、以降2015年頃までタンチヨウに餌をやり続けた。

20年前から鶴見台の真向かいでレストラン「どれみふあ空」を営む浜野浩年さん(70)は「ツルを本当にかわいがっていました。マナーの悪い観光客ははっきり注意する。それでもあつぱらかんとした性格で親しまれ、観光客にも愛される存在でした」と振り返る。

2007年には渡部さんの取り組みをまとめた書籍「ツルになったおばあちゃん」も出版された。村出身で神奈川県松蔭大学大学院教授の著者・伊藤重行さん(76)は「自主的に給餌を続け、『鶴の居る村』を作り上げた。世界的にみても大変すばらしい取り組みです」と話す。

大石正行村長は「ツルのおばあちゃん」と親しまれ、村の名産を高めた村民の誇り。偉大な功績と保護の意志をしっかりと受け継いでいきたい」とコメントした。(高橋祐一)

タンチヨウへの思いを語る渡部トメさん(2011年12月)

岡山市との交流進展へ

友好親善訪問団を歓迎

岡山市の友好親善訪問団の歓迎会が22日、釧路プリンスホテルで行われた。釧路市は、岡山市からタンチヨウの卵を送られたのをきっかけに交流を続けている。訪問団を迎えるのは4年ぶり。今回は大森雅夫岡山市市長30人が同日釧路市に到着。6人が22日、24人が25日まで道内に滞在した。



歓迎会であいさつする岡山市の大森市長(片山新平)

歓迎。大森市長は「広大な自然がうらやましい。お互いの関係をより進めさせていきたい」とあいさつした。会場では岡山市出身で釧路観光連盟観光大使の夏川あさみさんによるライブなどが披露され、参加者は釧路ラーメンなど地元料理を堪能していた。

歓迎会では署名大也釧路市長が「涼しい釧路の空気がおいしいものを堪能していただきたい」と訪問団を歓迎した。

阿寒のヨモギドレッシングに

市民団体が手作り きょうから道の駅で販売



阿寒特産品開発プロジェクトが販売する

釧路市阿寒町の市民団体「阿寒特産品開発プロジェクト」(吉田幸人会長)が、地場産ヨモギが材料の手作りドレッシングを商品化し、28、29の両日前10時から、道の駅阿寒丹波の里(同市阿寒町)のクレインステラスで販売する。昨年町内で採取し、凍で冷凍保存したヨモギをすりつぶし、カツオだしやレモン汁、シウワカなどを配合。シウワウの辛みヨモギの風味を引き出した。同プロジェクトは2015年に町内有志で発起し、ドレッシングの商品化は、二

ンジン、キャベツ、ギョウジャニンニクに続く第4弾で、メンバー15人が加工から瓶詰めまで手がける。味付け担当の会社員八幡里美さん(35)は「ヨモギの風味を生かしつつ、さっぱりと仕上げた。バスタースとしてもおいしい」と胸を張る。

販売は70本限定。一本150円(税入り)で540円。増産で5次刷、クレインステラスなどで引き続き販売する。問い合わせは町商工会0154-66-3331へ。(佐竹直子)